

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コトボ幡ヶ谷九〇四 電話(03)33377146649 FAX(03)3299153667
振替 東京0158431 労金 東京労金本店No1154163

購読料 月額500円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■ 巻頭言 ■	プロクラステスのベッド……………	2
「並立制」参議院での審議はヤブの中……………	3	
——良識ある議員は拡大の傾向——……………	7	
大量失業時代の到来(一)……………	7	
——吹き荒れる首切り、労働組合は?——……………	9	
投稿 連合への指摘、厳しすぎませんか……………	9	
「希望退職」を拒否し、一人首切り粉砕を……………	10	
資料 希望退職のお知らせ(NTT)……………	12	
自然からの警鐘……………	14	
本部は組合員の怒りの声を聞け……………	16	
——九月時短見直し憤りのなか実施——……………	17	
読者からのおたより……………	17	
編集部からのおたより……………	18	

旬刊 社会通信

NO. 558

一九九三年二月一日

一九九三年二月一日発行
(毎月一日・十一日・二十日三回発行)

プロクラステスのベッド

「プロクラステスのベッド」という古諺がある。プロクラステスとは、悪名高き古代ギリシャの強盗のことである。彼は道行く人を自分の住処におびき寄せると、ある時は言葉巧みに、またある時は腕ずくで自分の「ベッド」に引きずり込み、「ベッド」のサイズに合わせて、獲物の背丈が足りないときは、背丈を引き伸ばし、大き過ぎると手足や頭部を斬り落とし、物品・生命を奪うという冷酷残忍なことをなりわいにしていたという。

よく考えてみると、国家とか社会、学校・家庭・会社・政党・組合等々、すべて多かれ少なかれ、「プロクラステスのベッド」にはちがいない。広くルールといわれているものや、イデオロギーは、その最たるものといえよう。

「連立」とはまさに「プロクラステスのベッド」そのものである。この「ベッド」の中で日本社会党は、一体どうなってしまったのか、そしてどうなってしまうのか。

最初のうちは、百歩譲って、まあまあと多分に身びいきに眺めていたりしていたのが、そのうち、やれやれからあれあれとかわり、委員長選挙の締切日の延期あたりからじゃ、絶句である。どこかのTV局のやらせ番組よろしく、「換骨奪胎」の手ぎわの悪い手術を目のあたりに見せつけられたような悪寒さえもよおすほどだった。

どだい、このベッドに納まりきれないということは誰の目にもはつきりしていた。あの組み合わせでは、それでも左側が定位置だろうが、どんなに無理して手足をちぢめても、はみ出す部分が多過ぎることは、最初からわかりきっていたことだろう。同床異夢という言葉があるが、これではそれどころの話でもない。

乱暴な言い方になるが、指先や、手足の一本や二本、切られたところで何ということはないかも知れない。しかし、心臓部や頭部だったらどうなるのか。

PKO、小選挙区制、原発、消費税、三里塚、沖繩、安保等々、どの一つを取ってみても、爪先や手足の問題などでは決してない筈だ。まさに日本社会党のレーゾン・デートルにかかわる致命傷なのだ、とにかく声高に叫んでみたところで、既に耳でもそぎ落とされているのか、私たち末端の支持者の声はとどきそうにない。もう一言いわせて貰うならば、「大事の前の小事にすぎない」と事もなげに言いすてるほど、私たちは旧政権政党の「金権腐敗」には寛大にはなれないということだ。

はみ出た部分を斬られたり、首をすくめさせられたりする度に、当のご本人たちからは「そもそも連立政権というものは……云々」のベッドの理論をくり返しきかされる。

余程、ベッドの寝心地が良いのか、それとも永年の野宿の辛さにこりこりしているのか、ご本人たちの口からは、ベッドを出ようという声は伝わって来ない。

最近になってやっと「満身創痍になることはわかっているのだから、ベッド・インすべ

きではなかった。傷を負わない程度に力を貸せば良い（パリーシャル連合）といった趣旨の長老の主張が聞こえてきたが、私に言わせれば、これも完全にタイミンクを逸した発言で、今となつては犬の速吠えくらいにしか聞こえない。

このままでは、足をもがかれ、首をはねられるのも時間の問題だ、と心底、いらいらやきもきしているのは、私たち場外の「その他多勢」組ばかりではない筈だ。

いつ、ベッドをとび出すか、その機をうかがっているさめた部分があるにちがいない、とひそかに期待している層が私の周辺にも少なからずいる、ということもぜひ肝に銘じて貰いたいものだ。

所詮、祝福された縁組ではないのだ。

この説話にはもう少し続きがある。さんざんうま味を占めたプロクラステス、最後には英傑テセウスによって、全く同じ手口でベッドにはめられて殺されるということになっている。

一体、プロクラステスの役割は誰がやっているのか。世上言われているようにあの蔭武者か、それとも与党第一党の矜持にかけて社会党なのか。私にとつては、この問題は大事なことではない。どっちみち、本気でこの縁談にのつたのだから、今更誰がどうのと詮索するのはナンセンスだからだ。彼らにとつての「大事」とは単純な都合の論理だけだったのだ。

それよりも何よりも私たちが今、最も危惧していることは、仮に社会党が、われとわが身を切り刻んで生き永らえたとしても、このままではテセウスの鉄槌が下ることは必定だということ、そして更に困ったことは、そういった危機意識がまるで伝わって来ないということだ。タカをくくっているとしたら、事態は一層深刻だということだ。

現代のテセウスは、どこでも見かける名もなき庶民なのだ。

(M)

「並立制」参議院での審議はヤブの中 良識ある議員は拡大の傾向

——あきらめるのは早過ぎる!!——

「小選挙区制」参院ではどうなる

いわゆる政治改革関係法案の参議院審議が一月二十六日ようやく開始された。一月二十五日までが国会の会期。参院審議にはどうしても一ヶ月は必要だといわれているわけだから、どう無理しても会期内成立は絶望的である。当然会期延長論が出るわけである。臨時国会は二度まで会期延長できることになっているので、会期延長は、次の通常国会（一月下旬召集）直前までできるわけだ。一回目の延長で一挙に一月下旬まで延長するか、そ

れとも二回に分けてぎりぎりまで会期延長をはかるか、今後の与野党の駆け引きに左右されるであろう。

参議院の審議入りが一週間も遅れたのは、自民党の強硬姿勢にあることはもちろんだが、与党側の「小沢流」といわれる強引な国会運営とそれにしては拙劣な国会対策の結果であった。しかし考えてみれば理念・哲学の無い、マス・コミの作り出した支持率を頼りに財界の打出す外交、財・税方針（高額所得者の減税と増税⇨消費税率引上げ、米の自由化など）に従っているだけの細川連立内閣の現状では、ほんとうの政治改革ができるはずがない。国民もマス・コミの一部も「小選挙区比例代表並立制」は政治改革と直接関係のないことが理解されはじめている。参議院での審議が進行すれば益々小選挙区制の欠陥が表面化するし、非民主主義的性質が明らかになる。政党助成法への違憲性も指摘されることになるであろう。

社会党の護憲派のなかでも、県本や総支部専従役員、書記局・オルグなどのなかには、早くも中央本部の意向を受けて、「小選挙区制のもとでも勝てる体制づくり」を考えはじめている人達がでてきている。「諦めるには早過ぎる」と第一線の活動家のなかから批判がでていりし、参議院の二〇名を数える同志（小選挙区制反対の）の議員諸氏のたたかいに水をかけることになりかねない。衆議院の七人の勇氣ある言動に励まされて参議院でも頑張っているものであり、国会外の護憲派は小選挙区「並立制」反対の彼等に励ましの「集会」や「手紙」、そして直接電話活動するなりすることが大切である。なお一段と各県本、総支部段階でさらに職場で学習会をやるなかで討議⇨意志統一をすることが直面する課題である。

今自民党が景気対策と「政治改革法案」の修正をめざして（阻止勢力も多い）要求してきたのが補正予算の提出・予算委員会での審議である。与党側は、参議院での特別委員会の審議に早く入りたいのだが、野党の自民・共産両党は二九日以降の日程の設定に依っていない。自民森幹事長は会期延長にも反対を表明している。与野党は二六日に、参議院本会議で「並立制」とその関連法案の趣旨説明と質疑が行なわれた直後、二九日以降の審議について協議したが、三〇日午後に衆議院本会議で補正予算の趣旨説明と質疑を行うことしか決まらなかった。

そのため今後の補正予算案の審議のための参院本会議や衆院の予算委員会の開催（この間は首相、全閣僚が釘付けになるため他の委員会は開けない）などの日程によって参院の政治改革特別委員会の審議入りが決まってくるわけで、一二月一五日の会期切れに向けて与野党の攻防が続くことになる。

参院の社会党へ「連合」の圧力

「政治改革関連法案」の審議が参院で開始されたことから、衆議院での政治改革関連法案採決で、社会党議員六人、無所属（社会黨員だが兵庫の右派幹部の妨害で社会党会派に入っていない岡崎氏）一人の計七人が修正政府案に反対行動したこと、参議院社会党議員団にいろいろの圧力、ドウカツがかけられている。その一つは、右翼派閥・水曜会からの「見せしめのために衆院の反対議員は処分せよ」という要求がある。その先頭に立つ

ているのは本岡水曜会代表だが、彼は参院の政治改革特別委員長でもあることから反発も広がっている。本岡特別委員長が委員会の運営について首相等と先走って打合せを行ったことから、自民党からの「運営はまず委員会と協議せよ」という抗議を受けている。自民党の言い分の方が正論と受け止められている。この本岡委員長の出過ぎた言動への反発のためもあつて参院審議日程の設定が遅れているのである。

参議院での採決のときに政府案に反対者を五人ぐらいにおさえ込もうと山岸連合会長のしゃばりが再び始まっている。一月二六日首相と会談し「参議院での政治改革法案審議について（山岸氏から）社会党への働きかけをお願いしたい」とあいさつされたのを利用して、さっそく「（山岸氏は）許される最大限の努力したい、具体的には反対派議員に対しては、出身労組・単産を通じて働きかける」ことを約束した。山岸氏は「出身労組（単産）を通じて」といつているがこれは次の選挙をどうするのかという「ドウカツ」をかけたよということである。さらに中央本部は各出身県本から圧力をかけさせようとしている。

社会党参院議員のなかから十名反対投票をすれば「並立制」は阻止できるという状況がある。それだけに細川内閣と社会党右翼幹部も必死である。このなかで良心的議員に勇気をもってもらうためには、この議員達を励ます行動を組織しなければならない。参院議員を呼んで集会や「並立制」を考える会を開催することである。議員会館に行つて直接会うことも大切であるし、そのとき並立制の再検討を求める総支部の決議を渡すこともよいのではないか。手紙を出し、電報も打つことぐらひは皆んなでやるべきだ。

いわゆる政治改革関係法案を否決しても連立内閣は続くのである。もちろん首相は交替するかもしれないが、自民党と対決する方針さえ明確にもっているならば「非自民」の内閣であっても続くことになる。そのとき社会党は今までの責任上連立内閣を支持して、そのうえで内閣から離脱して、いわゆる閣外協力の立場に立つべきである。閣外協力であれば党の方針に反することに賛成する必要はない。これで主体性を確立できるのである。本格的な党再生・再建が大きく前進することになる。連立内閣から離脱して閣外協力で転ずる以外社会党再生の政治的方策は今のところありえないことを充分に考え行動すべきである。

奮闘する参院護憲派

衆院での「並立制」の採決は政府案をさらに修正したもので行われた。社会党大会で二五〇と二五〇という最も重要な小選挙区と比例代表の定数は変えてはならないという「決議」を、村山執行部は政府側（実は小沢・市川ラインの画策）のいいなりになって二七四と二二六に修正したものを受け入れている。したがって村山執行部こそ山花執行部に続いての党方針違反であり、厳しく批判されなければならない。衆院で政府修正案に反対した六人（一人は退場）に対して党規律違反としているが、そういう執行部こそ規律委員会にかけられるべきである。

これに対して参議院の社会党有志は村山執行部に抗議した。佐藤三吾、矢田部理、稲村稔夫、小川仁一、穂山篤の各参院議員等である。「並立制」の再検討も強く求めているのである。山岸連合等の介入・圧力の加わるなかでの行動であり、その勇気を讃える声が大

きくなっている。

「並立制」の審議に入った参議院の現状をみることにしよう。参議院は「無用」と公明党の市川書記長がいったというがとんでもないことである。二院制のよさは今日のようにならぬ衆議院が総保守体制になっていて、今は自民と非自民となっているが、いつ協調して消費税率一〇パーセントにするか、さらには憲法改悪をめざすかわかったものではない。これに対してのチェック機能をもっていなければならぬのが参議院である。今度の「並立制」についても、参議院は日本の議会制民主主義と国家権力の関係、国民の権利と民主主義について十二分に、国民にわかるように「小選挙区比例代表並立制」と関係法案に対して検討・審議をすすめるべきである。まさに党利党略をはなれて「衆院のコピー」などといわれないように、その責任を果すべきである。今日まで数え切れないほど多く「良識の府」としての参議院は、そのよさを国民に見せてきているのである。国民の熱い眼が参院にそそがれていることを忘れてはならない。

参議院の総定数は二五二で現在欠員一で、二五一が現在の議員数である。党派別には、与党は社会七三、公明二四、日本新党新生改革連合（日本新党四、民主改革連合一、新生党八の合同会派）二三、民社一一、である。これに対する野党は、自民九八、共産一一である。与党は合計百三十一に対して野党合計百九である。この他に会派は、二院クラブ五・と無所属六である。

いま参院社会党内には「並立制」反対の議員は少なく見積もっても約二〇人いる。このなかの何人かは圧力・介入に屈するかもしれないが、十数人は最後まで頑張ってくれるものと期待されている。さらには無所属と二院クラブの紀平、青島の各氏等の動向が注目される。日頃の言動では反対とみられているのだが。

これらの議員がまとまって反対すればまぢがいなく廃案にできる。しかし一方自民党内も複雑である。三塚派、渡辺派の動きが小沢寄りになってきている。派閥のタガがゆるんでいるから派閥の動きよりもそれぞれの思惑が先行しており、政府側の働きかけ如何によつては再分裂の可能性を大きく内臓していることは間違いない。そのために、来年一月下旬の通常国会直前まで会期を延長して、自民党の条件を大きく受け入れることも小沢・市川ライン（新生党と公明党）は画策しており、山岸連合、田辺・久保の社会党右派「水曜会」なども社会党を分裂させても「並立制」を成立させようとしており、政府側に向つて「脱党宣言」をいう議員もいるのである。村山執行部は右派を野ばなしであるため、指導性を失い、党決定も守らせることが不可能である。一月一日から三日間の全国大会での論争のなり行きによつてはそこから全国的な抗争となり、いよいよ社会党は危機を深めることになってくる。

（社会通信政権研究班）

大量失業時代の到来 (一)

—— 吹き荒れる首切り、労働組合は？ ——

のたうち回る世界の資本主義国

資本の論理は果てしなき価値の増殖だ。一九六〇年代の高度成長期をつうじ、日本社会は「資本の論理」に包摂されつくしてしまっただ。利潤追求を追い求める効率化が善とされ、それに疑問を呈する者は悪との烙印が押され、職場はもちろん地域社会から「国賊」とする雰囲気がつくられた。その典型が大商業ジャーナリズムがこぞって宣伝した「国労国賊論」に他ならなかった。

資本の論理が闊歩し、生活様式は様変わりした。今では魚が肉より高く、子供たちはパソコン・ゲームに熱中し、車が道路を占拠する。過日、イムジチ合奏団を聞いた。アンコールの拍手に応え演奏したのが「赤トンボ」。夕陽に赤く染まる山野、風に舞いながら群れ、飛び交う様が、じつに巧みに演じられた。私たちの時代の子供の世界をコンサートマスターのバイオリンがかなでてくれた。幻想的ともいえるこの世界は、今、太平洋ベルト地帯にはない。永遠の「繁栄」を約束するかのように見えるこの世界は、どうやら陽は沈み始めたようだ。資本主義の本性が列島を覆い、「こんなはずじゃなかった」とのアセリと失望がひろがっている。これぞ歴史は弁証法家の見本が、「社会主義世界体制」の崩壊とともに、資本主義の矛盾が一挙に爆発したことだ。

先進資本主義国(OECD)の失業率は十パーセントをこえた。経済成長率もマイナス。出口は見えぬ。世界の盟主アメリカにも力強さはなく、ソマリアが第二のインドシナ半島になろうとしている。さ迷える資本主義体制、そして日本はどこへゆく。

首切り合理化—すさまじい実態

資本主義の業病、失業が働らく者を直撃している。すさまじいの一語にすぎるといいうのがその実態だ。まずその様からみよう。

第一、希望退職募集。 主な事例は第一表のとおり。その特徴は多くの企業で募集人員が全労働者数の十パーセント内外にもおよんでいること、その手法が希望退職という直接的な手法とともに転身ライフプラン、早期退職優遇制度、選定年制、退職前提退職等といったように厚化粧させ、社会的な対立、摩擦激化をやわらげようと必死の努力をしていることが特徴だ。

第1表 希望退職

NTT	1万人
他に管理職課長以上対象に	1000人
※第1次応募者	4600人
沖電気	2000人
(希望退職)	600人
アルプス電気	1300人
他に出向	
山水電気	120人
前年にも150人の希望退職	
日本ビクター	600人
早期退職優遇制度導入、他に出向	
スター精密	100人
古野電機	270人
日本NCR	1500人
日本IBM	1632人
早期退職優遇制度導入	
帝国通信産業	100人
日本DEC	200人
(500人応募)	
チノン	150人
ミノルタカメラ	115人
他に1時帰休	
電気化学工業	300人
他に600人削減	
ヤマハ	700人
転身ライフプラン導入	
オークマ	120人
部課長対象	
日産	選定年制導入
(45歳以上管理職対象)	
エンシェー	208人
日本航空	150人
殖産住宅	250人
己川製紙	230人
他に出向	
パイオニア	35人
(退職勧奨、管理職対象)	

第二、人員削減。 主な事例は第二表のとおりだが、その手法は配転、出向、転籍、定年退職者の不補充、新規採用者削減とじつに多様。配転、出向、転籍は広域が今では「常識」、

第3表 1時帰休

OKK (工作機械メーカー)	
昌運工作所(工作機械メーカー)	
岩城ガラス	3ヶ月
(管理職対象)	
河合楽器	730人
マツダ	2万5000人
(2日間)	
日産	2000人
(2日間)	
いすゞ	3工場
(4日間)	
新日鉄	月2回
日本鋼管	1000人
(管理職対象)	
住友金属	2万人
(十月より月1~2回)	
川崎製鉄	全員対象
(94・1より)	
日立	ビデオ部門
(昨年につづき2回め)	

第四、一時帰休。この手法は企業忠誠心を労働者にまきおこさせ、次の段階への準備をなすものとして、昨年、日立製作所から始まった。

業、関連企業が軒並み不況の嵐に見舞われ、整理・縮小を余儀なくされている現在、この手法は松下、トヨタ、ニッサン、ホンダ等超巨大企業にかざられてきている。

第三、派遣。一九八六年の円高不況時、その手法の中心は派遣だった。しかし、系列企業、製造業、流通業以上の人減らしが進行している。

ざっと以上のようなもの。バブル崩壊は銀行、証券会社等の日本資本主義の屋台骨も直撃。製造業、流通業以上の人減らしが進行している。

第2表 人員削減 (配転、出向、不補充、新採減)

日立製作所	2000人	住友金属	2600人	兼松紅商	間接部門15%削減
(94~95)		(2年間)		松屋	121人
東芝	5000人	日本鋼管	400人	三越	600人
(96~98)		(3年間)		パルコ	80人
松下電器	2000人	川崎製鉄	3200人	松坂屋	340人
(配転、管理部門を営業へ)		(3年間)		(96)	
ソニー	200人	新日鉄	7000人	大丸	300人
(配転、新入社員らを営業へ)		(3年間)		(94・8)	
日本ビクター	2000人	神戸製鋼	1900人	東急百貨店	1000人
(94・9まで) 本社移転		(3年間)		(95末)	
横河電機	700人	日新製鋼	600人	高島屋	1500人
(94秋まで)		(3年間)		(96末)	
日本IBM	2500人	日産自動車	8000人	三井金属	300人
(配転)		(95末)		(93)	
日本電池	200人	ホンダ	3000人	三菱マテリアル	1000人
(4年間で)		(95末)		(95)	
コロソピア	150人	マツダ	3000人	三菱油化	200人
富士通	6000人	(95~96)		(93)	
(95・3まで)		いすゞ 乗用車の生産中止		三井石化	400人
パイオニア	35人	ダイハツ 対米輸出中止		(3年間)	
三立電機	170人	日野	1000人	東ソー	500人
東芝タンガロイ	400人	(期間工、93末)		(95~97)	
大昭和製紙	300人	トヨタ工機	500人	新日鉄化学	200人
(97・3)		(96春)		(93)	
日本製紙	400人	中央バネ (トヨタ系列)	150人	秩父セメント	400人
(96)		(95春)		(3年間)	
三洋	500人	トヨタ車体	1500人	セイコーエプソン	900人
(配転) 650人 (出向)		(2~3年間で)		アマダ	100人
シャープ	440人	米国トヨタ自販	150人	オークマ	500人
(配転)		(2年間)		(2年間)	
カネボウ	2000人	米国フジ自販	10%削減	光洋精工	1200人
(96・3)		米国マツダ	200人	電気化学工業	1600人
東洋紡	469人	(94春)		三菱重工	300人
(94・3) 2工場閉鎖		米国日産	115人	(93)	
住江織物	500人	日産イベリカ (スペイン)	1200人	日本航空	1400人
(95・5)		(2年間)		(97年)	
ユニチカ	250人	住友商事	間接部門15%削減	ハザマ	200人
豊橋工場閉鎖		(95)		(94・3)	
シキボウ	500人				

単身赴任できればいい方で、職種・家庭内事情で“離職”は日常茶飯事。これも今では首切り手法の一つと化した。

第五、工場閉鎖。

第4表 工場閉鎖

J R 関東	600キロ路線-全路線の40% (5年間)
J R 東	ローカル列車削減(93・12ダイヤ改正)
三菱商事	子会社・関連会社600社を統合整理
カネボウ	3工場閉鎖 512人
日本製粉	2工場
日立	原町工場↓重電に切りかえ (94・3)
ホンダ	2工場
日産	座間工場 4500人
東洋紡	2工場
三立電器	須島工場 (三洋の下うけ)
小川燃料	47人
ナカミチ	福島(オーディオメーカー) 84人 (93・8)
新日鉄	広畑 (93・6) 室蘭 (94・4)
東芝	タレロガイ 2工場

この他、今ではあたりまえすぎて記事にもならない手法に賃金カットがある。しかし現在の特徴はポーンナスが前年比マイナスになった他、下請企業への単価切り下げが下請企業の経営基盤を直撃し、倒産状況を生み出し、地方経済をもまきこみつつあることである。

(つづく)

◆ 投稿 ◆

連合への指摘、厳しすぎませんか

No五五三号の巻頭言を読ませて頂き、なまいきですが、率直な感想をのべてさせて頂きたいと思いましたが、それに近い内容ではと思いました。

真意はもっと深くにあると考えますし、短い文章の中でのかみくだいた内容の記事は、限界があると思っています。連合の発足そのものが「大同団結」の名のもとに結成された組織であり、運動方針・政治方針にしても、連合の路線自体がますます命令と服従による民主主義を無視した幹部闘争を助長していく何物でもないと思えますし、何より、労働者に依拠した組織には決してなり得ないと思っています。

問題はこのようなナショナルセンターがある事と、それを許してしまっている我々にも、この間の労働者の実態からの総括をもってして、闘いを強化していくべき課題があると思っております。今、地域の中では、連合組織づくりが進んできていますが、その中で地域の中でやるべき運動課題を明らかにしていく事が重要ではないかと思えます。

大きな連合運動の流れの中で、まさしく逆流をしていく様な闘いをする時、内外からも大きな反感・意見等々含めてあってあたり前だと思えます。社会党が政権を担っている今日の情勢では、なおさらの事ではないでしょうか。しかし、国鉄分割・民営化の流れの時と同じようにいづれ理解されていく事を確信しています。

当時、国労を抜けていった仲間も「やはり国労で」と言う声は高まっていますし、国労以外の組織でも国労と同じ主張や会社との団交を始めている事実を見ても明らかのように、闘う労働組合があつてこそ、組織も仲間も守られる事は明らかです。

一日も速く、労働者一人一人がその事に気づくような私達の日頃からの闘いが大切になっていくと思います。必ず理解してくれる時は来ると思いますが、何よりも国鉄闘争を勝利させる事が、一番の近道ではないでしょうか。

私なりの考えを一方的に書きましたが、連合がと言うより、本当のナショナルセンターはどうあるべきか、連合の利点と欠点はどこかと言う客観的な分析を紙上掲載して頂ければ幸いです。

(国労・T)

「希望退職」を拒否し、 一万人首切り計画を粉碎しよう！

九月一日、N T Tが一人の「希望退職」募集を実施すると、各新聞で一斉に報道されました。今年から来年末までに、基本給等の十二月分または九月分の退職金の割増を付けて、一万人をN T Tの職場から追い出そうというのです。長引く不況、景気回復の兆しも見えないという中で、一万人もの労働者とその家族にどうやって生きて行けというのでしょうか。「希望退職」などに応じず、こんな反社会的計画は挫折させましょう。

組合員に無断で結ばれた一万人首切り協約

このニュースは、何にも知らない私達一般組合員にとっては、正に寝耳に水の話でしたが、職場に回覧された「全電通速報」によると、この計画は六月に説明され、八月二十四日にN T Tと全電通中央の間で、協約が調印されていたのです。この間、私達一般組合員は蚊帳の外に置かれ、何にも知らないうちに、労働者にとって一番大事な雇用の問題が決められてしまったのです。先程開かれた全国大会の議案にも出ていませんでした。「雇用の確保、労働条件の維持・向上をめざす」という議案の言葉が、これほど白々しく感じられたことはありません。

マスコミ・労働省にさえ批判される反社会的計画

この計画の狙いは、市内電話料金の値上げを認めて貰うために、合理化努力の姿勢を見せるものとも言われていますが、料金値上げのために、私達労働者が犠牲にされたのはたまりません。従業員一人当たり電話加入数で見た生産性は、昨年末で米国の地域電話会社や英国のプリティッシュテレコムを上回っているのです。マスコミでも「必然性のない希望退職募集」（朝日新聞）と書いています。

労働省も「再就職の希望者がいれば、会社として援助するなど、誠実な対応をして欲しい」と、社会的な影響への配慮を求めています。

「肩たたき」「強制」はしない、と言うけれど

全電通本部は「本施策は、あくまでも希望者に限定し実施するものであり」「募集にあたって『肩たたき』等、一切強制にわたることのないよう対処する」と会社に約束させたから、各職場で問題のないように対処されたい、と言っています。本当に問題は起きないのでしょうか。

会社として、希望退職者一万人という数字を公表した以上、目標達成のために、裏で色々な手を打つことは十分予想されます。

強制配転・職転で退職に追い込む会社

NTTが、今首切りに一番有効な手段として考えているのは、広域配転・職種転換の強制ではないでしょうか。

広域配転で、労働者に長距離通勤・単身赴任を強い、これに耐えられないとか、家族の都合で引越しもできない人達を、「自主的に」退職に追い込んだり、本人の希望に関係なく、他職種への転換を強制し、働きたい・労働者としてのプライドを奪い、「希望」退職へと追い込もうとしています。NTTにとっては幸いなことに（労働者にとっては不幸なこと）、全電通の協力を得て、配置転換協約も改悪したし、「社内出向」制度もできなし、その上、一万人「希望退職」の了解も得られて、今後は更に露骨にやってくるでしょう。

特に、営業部門へは多くの技術者達が、強制的に或いは嫌々ながら、追いやられて来ましたが、仕事にやり甲斐も感じられないまま、その日暮らしの毎日を送らされています。この上、まだまだ営業部門を増員しようとしています。労働者を辞めさせるための嫌がらせとしか思えません。

「退職募集」は無視しよう！

もう既に、職場には第一回（十二月三十一日退職）分の「退職募集」が掲示されています。これは完全に無視しましょう。少しでも興味を示すにつけこまれます。実際、営業部門に行く気は全然なかったのに、ちょっと興味を示しただけで「希望あり」と勝手に判断されて、転職させられた人もいます。一度承認したら、取り消しは認めない、と明記されています。用心、用心。

「肩たたき」されたら大声を上げよう

もし、管理者にそれらしい事を少しでも言われたら、絶対に嫌だと言いましょ。そして、職場のみんなに言い触らしましょう。「肩たたきは絶対しないはずなのに、管理者のXXはこんなことを言ってきた。組合はこんなこと止めさせてくれ」と。

諦めずに、全電通強化のために頑張ろう！

「NTTの職場もイヤになったし、十二ヶ月の割増がある機会に辞めようかな」なんて止めましょう。四十歳の方が、後二十年働けば、年間七百万円平均としても一億四千万円になります。三百万か四百万円の割増金でこれを棒に振る手はありません。

それより、全電通を労働者の生活を守る組合にし、安心して働き続けられる職場を作るために、頑張らましょ！

資料 希望退職のお知らせ (NTT)

NTTが今後の本格的な競争状況に対応し、事業運営の効率化を目指すために実施する各種施策や今後予定されている年金制度の変更など、社員のみなさんのライフプランに影響を与える環境の変化を考慮して、平成五年度及び六年度において、希望退職を実施します。

内容は以下のとおりです。

希望退職の内容

1、対象者

年度末の満年齢が四〇歳以上五七歳以下、かつ退職予定日現在の勤続年数が十年以上の一般社員の方が対象となります。

(但し、医療職能グループ、海底線技術職能グループの社員及び病気休職期間(三年)満了前三カ月以内の社員、刑事休職中の社員、懲戒解雇・論旨解雇となる見込みがある社員、解雇となる社員は対象外です。)

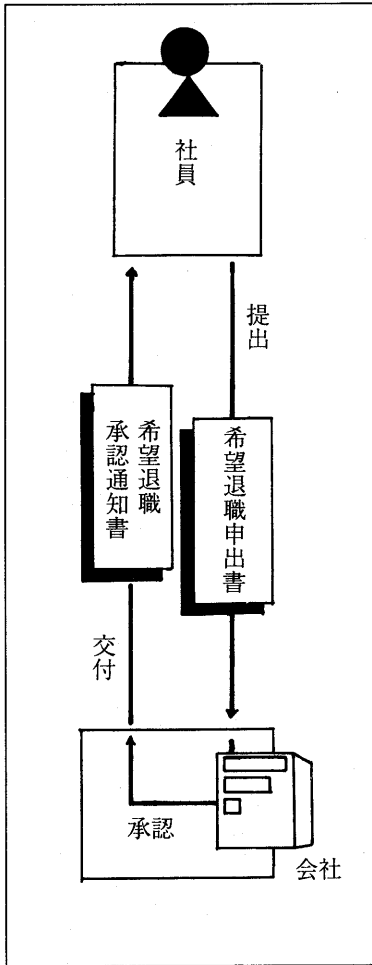
2、実施期間

次の三回実施されます。退職される方は、希望する退職日に応じた申し出期間中に申し出を行って下さい。

	希望退職日	申し出期間
第一回	平成五年十二月三十一日	平成五年十月一日～十月十五日
第二回	平成六年六月三十日	平成六年四月一日～四月十五日
第三回	平成六年十二月三十一日	平成六年十月三日～十月十七日

3、申し出方法

- ・「希望退職申出書」に必要な事項を記入し捺印のうえ、提出して下さい。
- ・承認後、「希望退職承認通知書」が交付されます。



4、特別措置

(1) 特別一時金

退職手当の他に、特別一時金が支給されます。

項目	算定額等	備考
退職手当	退職手当算定基礎額×支給乗率＝ 円	「定年退職等」の支給乗率が適用されます
企業年金	退職手当の28%相当を原資として年金が支給されます	対象者は、退職時点で満50歳以上かつ勤続20年以上の方となります
希望退職特別一時金	基本給等×支給月数＝ 円	支給月数は12月(第1回)、9月(第2回、第3回)となります
転進一時金	基本給等×支給月数＝ 円	転進援助制度の対象となる方にあわせて支給されます(支給月数は年齢により10～15月)
帰郷旅費	退職日から3カ月以内に旧在勤地または居住地から帰郷地へ移転する場合に帰郷旅費が支給されます	

※1 退職手当算定基礎額＝H4.3.31現在の基本給等＋(退職時の基本給等－H4.3.31現在の基本給等)×0.9

※2 基本給等＝年齢賃金＋職能賃金＋加給

感謝状・記念品	退職時点で勤続25年以上の方に贈呈されます
---------	-----------------------

共済年金	①共済組合員期間が20年以上の方 59歳支給開始となります 〔繰上げ支給を選択する場合は、繰上げ年数1年につき年金額が4%減額されます(最高10年の繰上げが可能です)〕 ②共済組合員期間が20年未満の方 60歳支給開始となります(繰上げ支給はできません)
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

●退職後、再就職先が決定していない方は雇用保険法による失業給付を受けることが可能です。

●退職手当、共済年金等の詳細については、所属先の担当またはライフプラン相談室にお問い合わせ下さい。

(「新退職制度ガイドブック」、ライフプラン研修の教材もご利用下さい。)

退職関係制度の適用シート(希望退職者用)

※転進援助制度の対象となる方で希望退職する方は、転進一時金以外の転進援助措置(転進助成金の支給、開業資金等融資の会社幹旋)を受けることはできません。

退職時の所属先の旅費事務担当者にお申し出下さい。
退職時(希望退職)の場合に帰郷旅費が支給されます。
退職日から三カ月以内に旧在勤地または居住地から帰郷地(退職後の生活の根拠となる地)へ移転する場合に帰郷旅費が支給されます。

(2)帰郷旅費の支給

退職手当は、「定年退職等」として計算された額となります。
なお、転進援助制度の対象となる方(年度末の満年齢が四五歳以上五五歳以下、かつ退職予定日現在の勤続年数が十年以上の社員の方)は、転進援助制度による退職手当、特別一時金が支給されます。

希望退職日	支給月数
第一回	一二月
第二回・第三回	九月

特別一時金の額は、退職日における基本給等に、次の支給月数を乗じた額となります。

自然からの警鐘

釣りを趣味とする友は多い。趣味がこうじて職業としてしまった友もいる。松チャンこと、松島秀治氏。この米沢の釣りキチがつくるサークルが「郡友会」。お国柄、山女（やまめ）、岩魚（いわな）を標的とする。彼らの発行する会報「魚止め」から一文を紹介する。

全国の釣りキチ氏が、松チャンに連絡され、売上増に協力されんことを望むや切。電話番号は〇三三八―二四―五二二四。（編集部）

傷つけられた綱木集落

八月二七日。台風十一号が吹き荒れた。

米沢市での被害はそう大きく取りだたされたいないが山間部を中心に自然の猛威の爪後が刻まれた。吾妻山系では、二〇〇mmの雨量を記録したのだ。

特に、米沢市最南端に位置している綱木集落では、予想以上の被害があった。綱木集落への連絡道は、二路線あり、いずれも県道となっている。がしかし、現況は、市道以下の林道を舗装した程度の道路である。

まずこの道路が両方とも寸断されてしまった。綱木集落は、まさに陸の孤島と化してしまった。

そして、集落内にある二ヶ所のイワナ養殖場のうち、一つが大雨による増水のためイワナが流出し、養魚場の水槽も土砂により埋もれてしまい、再起不能、壊滅という状況になった。

また、植林されたスギも土砂崩れなどにより倒壊という悲惨な結果となった。なぜこれほどまでに綱木集落が自然に傷めつけられたのか。

ダム建設と自然林伐採

綱木集落では、最上川水系鬼面川総合開発の一環をなす「綱木川ダム」の建設が現在行われている。この工事が今回の被害とまったく無関係とはいえないのではないか。

「綱木川ダム」は、鬼面川が急流のため古くからたびたび災害を引き起こし、とりわけ、昭和四二年の羽越災害による四三四戸の浸水家屋、被害総額十一億八千五百万円、昭和五六年八月の台風十五号による被害総額九千四百万円などの河岸の決壊、氾濫を繰り返してきたことに起因し、建設が実行されることとなった。

併せて、昭和四八年、昭和五九年の夏に見られたような水不足に際しての流水の不特定補給、正常な機能の維持を図ることも目的とされている。

「綱木川ダム」の概要は、ロック・フィルダムで高さ、七四m、総貯水量九、五五〇、〇〇〇m³、有効貯水量八、三〇〇、〇〇〇m³となっている。（総貯水量九、五五〇、〇〇〇と有効貯水量八、三〇〇、〇〇〇m³との差、一、二五〇、〇〇〇m³は、堆砂容量。）

有効貯水容量八、三〇〇、〇〇〇^mの内訳は、洪水調節容量四、九〇〇、〇〇〇^m、利用容量三、四〇〇、〇〇〇^mで利水容量三、四〇〇、〇〇〇^mのうち、二、七五〇、〇〇〇^mが水道用水で残る六五〇、〇〇〇^mが流水の正常な機能の維持として利用される計画である。

ともあれ、このダムが建設される過程には、災害防止という大前提がある。しかし、この災害も人的要素が多分に見受けられる。

昭和三〇年代の高度経済成長期に、建設材や紙、パルプの消費量の急増などにより木材単価が高騰し、木材の供給増加が極めて大きな課題として世論にも取り上げられ、国有林を中心として成長量を上回る伐採が行われ、併せて天然林を針葉樹の人工林にきり変える拡大造林が広範かつ急速におこなわれた。

ここ網木集落も例外でなく、さらに造林適地を超えて拡大造林が進行していったのである。川に面した山の斜面一体は、スギの植林だらけとなった。

スギを始めとする針葉樹は、広葉樹に比較して、根あさで保水能力に欠けている。このことが原因で災害が起きているのは、周知の通りである。

自然をこわす営利主義

また、昭和四〇年代から、米の自給調整と称して減反政策が始められた。奥山にあった水田は、収穫量や作業上の理由で減反用の田んぼとなり、荒廃した荒地地となってしまった。ここ網木集落には、たった一つの水田すら見当たらない。

水田は、日本人が作った食料供給基地であり同時にダムとしての機能を持って国土の保全に寄与してきた。

災害を引き起こしてきたのは人間だ。そう言っても過言ではない。

そして、このダムは利水、水道用水として二、七五〇、〇〇〇^mが見込まれているが地元集落の人に言わせると、この集水量はスギ山の状態のデータであり、工事のためそのスギすら伐採した現在以降どの程度集水量があるかわからないという。大雨が降ればその雨水は、一気にダムに流出する。ダムは、放水を繰り返す。裸の山には、まったく保水能力がないため、雨後は、水がまったくなくという状況である。

また、雨による土砂の流出も裸山によって予想されている堆砂容量を超えるのではないかと危惧されている。集水量が計画より下回り、堆砂容量が増えたとすると、利水、水道用水は、おのずと減ってくる。

全国的に指摘されているダム有無は、ここでも問われそうである。

台風十一号の米沢市の被害は、五億三、五〇〇万円、農林関係は、四億六、〇〇〇万円と八割を占め、中でも林道の被害は、三億六、〇〇〇万円の被害となった。台風十三号は、戦後最高の台風という規模ながら米沢市での被害は、皆無であった。

しかし、台風の本当のシーズンはこれからである。

自然の摂理を無視する人間への警告、戒めは、まだまだ続く……。

本部は組合員の怒りの声を聞け

——九月時短見直し憤りのなか実施——

全通本部は「引き続き中・長期的に求めていく課題はあるものの、当初の深夜勤拡大の省提案を覆す対置要求を組立て、暦日非番の確保や実質明け勤務の創設、手当の増額等を求め実現を図った昨年末の時短交渉成果と今次見直し改善要求整理と併せて考えた時、全通の積年の課題であった四週八休制については、名実ともに組合員の期待に応え得る制度が確立されたものと判断する。」と自画自賛した文章とともに、時短の九月見直しの妥結を行った。

「名実ともに組合員の期待に応える」内容は、実際職場の組合員にどのように受け止められたのだろうか。大変な憤りと落胆を持って受け止められている。仮眠二時間三〇分に拡大というが、省の持ち出しはゼロである。「仮眠したいなら、自分の時間で、やりな！」と言われていたような妥結内容である。

そもそも、三・二一時短実施は「九月見直し、三月見直しとの省の明言を得た」ことを持って、無理やりまとめられたものである。「現在には不満でも、見直し時期に大胆な改善をせまるのだから」と地区役員が報告していたことは記憶に新しいことである。深夜勤の導入に大きな怒りを感じながらも「見直し」に大きな期待を抱いた組合員は職場では圧倒的多数であった。

全通本部に言わせれば「全国大会でも、定員に関わる見直しは九月に求めないと断ったはずだ。」と言うだろう。今回の妥結内容は東京地本の要求した内容に近いことは事実であり、その意味では全通の意向を酌んだものなのだが、組合員の気持ちとは全くかけ離れた内容と成っている。このことが、現在の全通運動の最大の問題点である。

「今回、仮眠を二時間三〇分にしないで、三月の見直しの内容を見て、仮眠を拡大したい」と上部に相談したら「三月に何があると思うのか、定員の見直しだけだ。それも大量じゃない。今回拡大しないなら、もうできない」と答えられた。「見直し」とは新夜勤導入の方便でしかなかったのである。

職場段階では、現行か、働く者の時間持ち出しの仮眠拡大か、大きく揺れ動くことになった。「省の持ち出しも無い中で、仮眠の拡大は、拘束時間の延長であり、見直し・改善とは言えない。現行で行き三月見直しで、省に持ち出し迫れ」という意見が圧倒的支持を得た。

「今度こそは、今度こそは……」と注目してた組合員に、妥結内容は「俺たちの気持ちとは関係なく、上でかってに交渉され、決まっている……」と、より大きな上部不信を抱かせた。こうした中では「健康のためには、二時間より二時間三〇分の仮眠の方が……」という問いかけも、空回りするばかりであった。

当局地域区分局段階では、多くの職場が、全体の合意を得られないまま二時間三〇分のインターバルを導入した服務とした。新東京は当局の「勤務を後ろに延長する」という提案のため対立し、十分だけの延長の服務とした。

職場段階でぎりぎりの判断を迫られ、思い悩む状況の中でも上部が職場に入ることにはなかった。

すでに、十月三十一日から新服務が始まっているが、三月見直しの内容によっては、組織問題も浮上しかねない状況にある。

黙っていたら、三月見直しは、現在の延長線上のこととして、組合員の気持ちと関係なく進行することは明白である。

我々の任務は重大である。三月まで組合員の熱い期待を具体化するために、奮闘せねばならないと痛感する。

◇ 読者からのおたより ◇

「分裂」しないように 社会党が小沢、細川などより揺さぶりをかけられています。護憲・平和の党として分裂することのないよう、労働者・国民に見える運動をしてほしいと思います。微力ながら地方でがんばります。
(千葉・H)

編集部より 今の社会党、かつての社会党ではありません。小沢や細川、もつといえは「民間政治臨調」に手をつた込まれていますから。「分裂」しないためには、社会党を社会党でなくしてしまおうと悪い企みをもっている人たちに党から出ていってもらう以外ありません。このためにはまなじをけつしたたかいかが必要ですよ。

具体的方針を とすれば現状に埋没しがちです。でも貴誌を通して全国の仲間へ接するとき元気がわきます。また決断できない時、指針にもなります。
(長野・H)

編集部より 現状に埋没しちやダメ。一歩行動をおこしてみましようよ。何か見えてくるはずですよ。

「交錯」 社会党に対する報道内容、悲しくもあり怒りもおおぼえます。
(青森・I)

編集部より しっかり現実を見つめ、これから逃げないこと。歴史は動いてますから。私たちが舞台で踊ることが大切です。いっぱいあるでしょう。やることは…。

資料送って 社会党の動きがよくわかりません。岩井さん等の活動の資料送って。

(岐阜・N)

編集部より 別便にてお送りします。

地区組織を再強化 私達は、情勢を再度全体で一致させながら、国鉄闘争と共に歩みを進めていく決意を改めて固めました。

その一つとして、支援共闘会議の地区組織を再強化しながら、組織内の今の情勢について認識を深め合い、一方では、自らの運動、職場闘争強化に向けてコツコツと進めようと今話し合っているところです。

幸いにして、青年婦人組織である分・民会議が不十分ながら動いておりますので、財政面も含め立て直して行きたいと考えています。

さて、社会党をめぐる情勢ですが日増しになさげなくなっておりますね。当支部も二五〇六名たらずですが、地区労組織内全体に党支部通信を発行し、あわせて、一五〇枚の葉書行動を村山委員長あてに出して行くことに致しました。

ゴミ箱にポイとはなりたくありませんので第一衆院議員会館第五〇二号に出すことに致しました。すでに遅い取り組みだとは充分承知しておりますが、党に対してモンモンとした気持ちだけを抱いていても何なりませんので行動することにしました。たぶん、国会が動いている最中に今後二、三の山場があるだろうと思しますので、そこそこで、具体的に

な動きをして行きたいと思えます。

又、国鉄闘争については、一二月をメドに大衆闘争を強化して行くつもりです。中労委がどうなるかわかりませんが、具体的にやってみるつもりです。

中川郵便局の年バイの全通組合員が「郵政合理化当初、自分達への営業活動強化・機械合理化は定年退職前の退職者を多く出し、仕事についていくのに必至だった。今気づくとその姿は職場であたり前とされている。国鉄分割民営化攻撃は自分達の実態と共通するから共闘していくんだという気持ちだが、合理化に必死について行く職場になって物を買うだけの関係になってしまった」と言っていました。やはり、自分自身の職場で何をしているのか、又、その前にどんな状態なのかをもう一人の仲間と討論し、労組に結集していくことが求められています。

困難さばかり目立ちますが、明るく討論しながら、前むきに頑張って行きたいと思っています。話に聞くと一二月二三日に中央共闘小島さんが浜頓別・音威子府で講演する予定になっているようで、一つまた集中したいと考えています。

新たな決意、護憲の党再生 職場へ社会新報を配布するのが嫌になった。もっと自信を持って配れる記事をのせてほしい。

真面目な党員がヤル気をなくしていくような、今の社会党の現状をなんとかしたい。こんな気持ちから、一月二〇日の護憲ネット結成総会へ、五名の仲間と共に参加しました。私自身は九月二四日の集会についての参加ですが、今回は、前夜の「三千語宣言集会」に引き続きの参加となりました。

二日間を通じて、国弘参議員・岩垂衆議員の勇氣に満ちた発言を聞きながら「まだ頑張れば何とかなる。」歯ざしりしながら、悔やしい思いをしている先輩党員や、党支持者の皆さんにこたえるためにも、護憲の党を守り、再生させるための活動の一翼を担いたい。

決意を新たにしたところです。

(岐阜・K生)

編集部より 「全国ネット」総会は前号で報告しました。

次号より、さらに詳細な報告をお伝えします。

◇ 編集部からのおたより ◇

▽国労のTさん投稿ありがとうございます。連合結成は八九年、わずか四年にすぎませんが、今や社会党消滅の危機が訪れています。

▽その背景に総評解散に象徴される労働運動の後退があります。日本の政治は労働運動の動向と一体なんです。

▽連合という労働組合の弱点をしっかりと見定めることが必要のように思います。第五四号に連合第三回大会を報告しています。足りないところはこれで補って下さい。おたより、投稿、楽しみにしています。

▽すさまじい首切り。反対の声、たたかいを起こさない労働組合。J R株上場は株式市場を直撃しています。金融市場はのたうち回り、不況は大恐慌への兆しを深めています。

▽「全国ネット」が結成されました。無限の可能性を秘めての出発です。次号では十一月二〇日の結成総会のもようを特集します。乞うご期待！